

# 農 林 水 産 大 臣 賞

## 1. 地区概要

参加団体名：千葉県いすみ市 夷隅中部土地改良区  
 表彰地区名：北中村地区  
 事業名等：県営担い手育成基盤整備事業  
 工 期：平成11年度～平成18年度  
 主要工事：整地工A=42.8ha、道路工L=5.6km、用水路工L=8.4km、排水路工L=5.0km、暗渠排水工A=41.1ha

## 2. 活動の概要

本地区は、県営担い手育成基盤整備事業の実施に合わせて、担い手2名（認定農業者）と新たに1営農組合を設立し、地区内の農地の利用集積を図り、平成20年度では担い手への集積率が56%に達し、事業計画を上回る実績となっている。

また、峰谷営農組合では、酪農家（乳牛）と連携して飼料作物の青刈トウモロコシを4.2ha栽培するとともに、稲わら5.9ha分を収集して耕畜連携を実践し、地区内の転作にも寄与している。

神置集落では、従来から畑で柿栽培に取り組んでおり、地区外を含めて組合員所有の柿畑が3.5ha（地区内0.3ha）あり、営農組合が一括で共同防除を行い、併せて生産・販売を行っている。柿の収穫時期には、観光もぎ取りを実施しており、平成20年度では約400名の来園客があり、集客イベントとなっている。

さらには、平成20年10月31日に、水稻、食用なばな、柿を対象として、「ちばエコ農業産地」の指定を受けている。北中村工区の担い手は、平成16年度から新規導入作物のブルーベリー栽培に取り組み、平成18年度にエコファーマーの認証を受け、平成19年度にトイレや休憩所の環境施設の整備を行い、摘み取り農園1.2haとして開園している。

## 3. 受益地区における農家及び担い手の状況

(1) 受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在	
総農家数	84戸（0戸）	61戸（3戸）	
うち専業農家数	3戸（0戸）	4戸（4戸）	
うち兼業農家数	81戸（0戸）	57戸（0戸）	
認定農業者	2人	2人（北中村工区）	（ブルーベリー）
生産組織等（法人含む）	0組織	1組織（峰谷工区）	（柿）

※（ ）は、担い手農家数

(2) 農用地の流動化状況

項 目	事業実施前	現 在	目 標
受益面積	44.6ha	42.8ha	
担い手等の利用集積面積	2.2ha	24.1ha	20.7ha
①利用権設定面積	0.3ha	0.4ha	5.6ha
②受託面積	0.0ha	21.4ha	13.0ha

## 4. 農業経営状況

区分 作物名	事業実施前（10aあたり）			現 在（10aあたり）		
	労働時間	反 収	生産費	労働時間	反 収	生産費
水 稻	63hr	554kg	167円	7.3hr	599kg	79円

作物名	区分	作付面積の推移		
		事業実施前	現在	目標
水 稻		36.4ha(2.2ha)	35.1ha(23.6ha)	28.2ha(20.8ha)
大 豆		1.4ha(0.0ha)	0.5ha(0.0ha)	4.0ha(0.0ha)
飼料用トウモロコシ		1.4ha(0.0ha)	4.3ha(4.3ha)	4.0ha(4.0ha)
夏秋なす		0.6ha(0.0ha)	0.2ha(0.0ha)	1.6ha(0.0ha)
冬春だいこん(裏)		0.6ha(0.0ha)	0.3ha(0.0ha)	0.6ha(0.0ha)
さといも		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	1.0ha(0.0ha)
未成熟トウモロコシ		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	1.0ha(0.0ha)
かんしょ		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	0.4ha(0.0ha)
ね ぎ		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	0.4ha(0.0ha)
白 菜		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	0.4ha(0.0ha)
食用なばな(裏)		0.0ha(0.0ha)	1.2ha(1.2ha)	3.0ha(3.0ha)
そらまめ(裏)		0.0ha(0.0ha)	0.0ha(0.0ha)	1.0ha(0.0ha)
柿		0.0ha(0.0ha)	0.3ha(0.3ha)	0.0ha(0.3ha)
ブルーベリー		0.0ha(0.0ha)	1.2ha(1.2ha)	0.0ha(0.0ha)
計		40.4ha(2.2ha)	43.1ha(30.6ha)	45.6ha(28.1ha)
土地利用率		97%	103%	108%
(本地面積)		(41.6ha)	(42.0ha)	(42.0ha)

※( )は、担い手農家等の作付面積

## 5. 営農推進の状況

### (1) 栽培技術関係

①ブルーベリーの導入、本地区は粘土質土壌で排水も不良であったことから、ブルーベリーの導入に際しては、土壌改良から実施。平成16年度から、JAいすみと市場出荷の協議を重ね、17年度に試験販売を開始、18年度から本格出荷。早生のハイブッシュ系品種と晩生のラビットアイ系品種を作付けしている。18年度、出荷者44名全員がエコファーマーの認証を受けている。現在、本地区内では担い手農家1戸が1.2ha、地区外周辺で1.2ha栽培しており、今後は、安定的な収入となるジャム作りにも取り組む方針である。

### ②栽培、販売計画

峰谷営農組合が受託した作物（水稻、柿、食用なばな、飼料用トウモロコシ）については、営農組合が生産から販売まで一括で実施しており、委託者との経理についても一元的に管理している。

### (2) 転作関係の状況

①整備後の転作の状況（現況）：転作面積6.0ha（事業実施前の転作面積2.8ha（全て水田））

②転作作物名と作付面積：大豆0.5ha、ブルーベリー1.2ha、飼料用トウモロコシ4.3ha

③新規作物等導入状況：ブルーベリー1.2ha、食用なばな1.2ha

④転作や新規作物の導入にあたって、特にPRすること。

酪農家（乳牛）と提携、飼料用トウモロコシ導入するとともに、稲わらの収集（5.9ha）により耕畜連携を実践している。また、ブルーベリーを導入し、観光摘取り農園として脚光を浴びている。柿は、従来から栽培され、新たに事業地区内に0.3haを追加栽培し、営農組合が主体となって毎年もぎ取り体験を開催し、来園者が年々増加している。

### (3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取り組み

神置集落は、昭和51年度からスタートした「むらぐるみ農業推進事業」により神置柿団地を形成し、峰谷営農組合が薬剤防除から摘果、収穫作業に取り組み、シーズン中には地元の直売所の他R128沿線に直営の七井土直売所開設している。しかし、生柿は日持せず、販路拡大のため平成20年度に柿の乾燥機を購入し、干し柿としての販路拡大を図っている。平成16年度より始めた柿のもぎ取り体験は、平成20年度では約400人の来園者があった。本年度は、10月10日（土）に西村早生柿、11月8日（日）に次郎柿のもぎ取り体験を開催した。さらに、飼料用トウモロコシの裏作で食用なばなを約1.2ha作付、なばなの摘み取りやバラ集荷による産地作りを目指している。なお、いすみ市において、本地区を旧夷隅町のモデル地区に選定し、毎年2月の第3土・日になばな摘みを開催して地区内外に宣伝し、市の活性化と産地化の一翼を担っている。

## 6. 環境に配慮した取り組み

峰谷営農組合は、平成20年10月31日に「ちばエコ農業産地（水稻7.0ha、食用なばな1.1ha、柿0.3ha）」の指定を受け、環境に配慮した営農を推進し、有機肥料栽培を目指し、地力増強による減農薬・減化学肥料に取り組んでいる。また、1軒の畜産農家と提携して、供給する稲わらの面積は約5.9haに達し、また、堆肥による土づくりを行うなど、化成肥料を減少させた飼料用トウモロコシの作付け面積は、4.3haに拡大している。

## 7. その他事業実施の効果による新たな取り組み

### (1) 余剰労働力の活用方法について

水稻栽培の集積による余剰労働力は、転作の飼料用トウモロコシや畑作物の栽培に振り向けられており、水稻の管理と併せて有効活用がなされている。また、水稻の収穫以降は、柿の収穫と摘み取り体験や、裏作である食用なばなの作付を行い、専業農家にとっては年間フル稼働の状態となっている。

### (2) 新たな雇用の場の創出

柿、食用なばな、ブルーベリーの収穫時期においては、最低賃金を900円/hr以上で農作業機械を持ち込んだ場合には別途加算と規定し、集落内の定年退職者や帰農者、女性の雇用の場となっている。また、高齢者を直売所や干し柿作りに配置して、活気を与えるとともに、ブルーベリーのジャム作りには、主婦が参加して新たな雇用の場となっている。農村集落においても、全員が参集する機会は減少しているが、営農による雇用で組合員の多くが集まることから、情報交換の場ともなり地域の活性化にも繋がっている。

## 8. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦勞した点

### (1) 事業の経緯

当初計画と実績では面積減少はあるが、その調整は全て地元が行い、事業実施等においては行政側が苦勞する案件は少なかった地区と言える。

### (2) 地域の特性

本地区は、地理的条件から河川を挟んで2集落となっており、換地計画においても2換地工区としている。担い手においても、北中村工区は個別農家2名であり、峰谷工区は1営農組合としていることから、工区単位で独自の営農体系を確立し、着実に実践してそれぞれに成果を上げている。換地と同様に、集落を単位とした営農が従来からなされてきており、事業実施前は両工区へ出入り耕作を行っていたが、換地において飛び地を解消、2工区に分けてまとめた。

### (3) 関係組織との連携

本地区では、ブルーベリー、食用なばなを導入しているが、栽培方法、販売方式等について地元のJAと複数年にわたり打合せを行い、試行錯誤を重ねた結果、今日の姿となっている。

## 9. 周辺地域への波及効果及び将来の展望

### (1) 周辺地域への波及効果

本地区の周辺には、複数の同種事業地区があり担い手が水稻での利用集積に努めているが、転作や裏作までは対応できていないのが実態である。また、水稻のみでの経営は収益が少なく、組織の運営に苦慮している状況にある。峰谷営農組合は、水稻のほかに、柿、食用なばなの生産販売や、畜産農家との契約による飼料用トウモロコシ、稲わらの収集・確保など、多品目を経営の対象としていることから、集落営農のモデルケースとなっている。

### (2) 将来の展望

峰谷営農組合において、平成20年度の総収入額は1千9百万円程あったが、従事者である2名の専業農家にとっては、認定農業者クラスの所得があったとは言えないことから、まず第一に、担い手の所得向上を図らなければならない。次に、組合員全員が働ける場所を確保することであり、最後に、きちんと労賃を支払える経営体質の確立であることから、経営規模の拡大はもちろんながら、できるだけ早期に法人格を取得し、健全運営の組織を目指している。また、柿と食用なばなの摘み取りを実践して集客能力があり、各種イベントにも参加しての販売意欲があることから、地域に根付いた経営体であるとともに、地域のリーダー的な存在を視野に入れている。



柿のもぎ取り体験



稲わらの収集

機械は、営農組合が酪農家からリース



食用なばなの栽培



ブルーベリー栽培研修